



テレビ高知
開局50周年記念事業



いつも
はじまり

酒井敦美
Atsumi Sakai

光の 切り絵

2021年

4月17日(土) ▶ 7月4日(日)

横山隆一記念まんが館

高知市九反田2-1 (高知市文化プラザかるぼーと内)

9:00~18:00 (最終入場は17:30まで)
※毎週月曜日は休館
(祝日・振替休日の場合は開館)



さかい あつみ
酒井 敦美さん

愛知県出身・在住。独学で絵を描き続け、舞台用の切り絵制作を経て、光の切り絵アーティストとなる。
“切り絵”を、“光”に透かして表現するオリジナル作品を「光の切り絵」と名付け、制作・発表を続けている。光の切り絵の中には、一枚の切り絵が2場面に変化する、「一画二驚(いちがにきょう)」、街路や自然の中に切り絵を投影する「幻灯空間(げんとうくわかん)」などがあり、様々な表情の光の切り絵を制作している。

- 音楽 / 岡林和歌(作曲・クラリネット) 美郷(パーカッション)・金沢あきな(ピアノ)
- タイトル字「いつもはじまり」/ 北古味可葉
- 和紙オブジェ / Washi+
- 動画制作 / いけはら咲・フジモトヨシタカ

入場料	一般	800円・団体640円
	大学生・専門学校生	600円・団体480円
	中・高校生	400円・団体320円
	小学生以下	300円・団体240円

※3歳未満は無料

●主催:公益財団法人高知市文化振興事業団 横山隆一記念まんが館、KUTVテレビ高知
●後援:高知新聞社、朝日新聞高知総局、毎日新聞高知支局、読売新聞高知支局、エフエム高知、KCB高知ケーブルテレビ、(公財)高知勤労者福祉サービスセンター

横山隆一記念まんが館 TEL.088(883)5029 / 9:00~18:00(月曜休館、ただし月曜が祝日の場合は開館)
ホームページ▶ <http://www.kfca.jp/mangan/>
テレビ高知メディア企画部 TEL.088(880)1110 / 9:30~18:00(土・日・祝を除く)

※団体は20名以上 ※65歳以上の方及び身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳、戦傷病者手帳及び被爆者健康手帳所持者とその介護者(1名)は割引料金(半額)でご覧いただけます ※横山隆一記念まんが館常設展示を特別割引(一般200円)にてご覧いただけます

来館時には、新型コロナウイルス感染拡大予防策にご協力をお願いします。詳しくはHP等をご確認ください。

絵に入る

げんとうくうかん

— 幻灯空間 —

始まりは高知県佐川町

旅好きな酒井さんが高知県佐川町にある、風流な酒蔵を訪れたときのこと。書家 北古味可葉さんとの出会いがきっかけで、初めての野外幻灯が実現しました。その後、佐川町の酒蔵の道を舞台に10年間、町の一大イベントとして地域の人々に親しまれてきました。本展では、その世界を室内で表現します。前回の仁淀川に続き、今回は足摺岬「白山洞門」が舞台。いの町在住のWashi+さんによる表現豊かな巨大土佐和紙をスクリーンに、高知県出身の音楽家 岡林和歌さんによるオリジナル楽曲と共に空間を包み込み、幻想的な世界へと誘います。

※掲載写真は前回の展示作品『よどの森』です

一画二驚馬

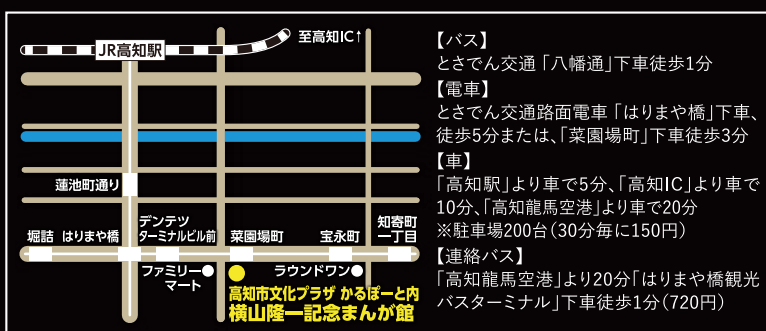
いちがにきょう

ひとつの絵から
ふたつの驚き



物語のある光の切り絵たち

一本の木に向かって佇む女の子を描いた切り絵。それを光に透かすと、こちらを向いた女の子の背中に春(桜)の羽根が生えた春の表情に早変わり！光の当て方によって、一枚の絵がもう一つの顔を見せる不思議な技法。偶然の発見から編み出され、表面には水性インクで色付けした和紙を、裏面には同じく色付けした半透明の紙をパズルのように組み合わせ、表裏それぞれの絵を作るといった技法で、変化する絵の中に、物語を描いています。



いっしょ
はじまり

酒井敦美
Atsumi Sakai

光の切り絵

照らす光でその姿を現す「光の切り絵」。
その生みの親である酒井敦美さんの作品は、初めて見る人をおどろかせるインパクトに富んだ切り絵でありながら、見た人の心をほっこりと温めてくれる、そんな力をもっています。
第二回目となる本展では「はじまり」をテーマに、春らしい明るく優しさにあふれた作品群で皆さまをお迎えします。
酒井敦美さんの代表作である「一画二驚(いちがにきょう)」からは、物語のある温かな繋がりを表現した、よりすぐりの作品をご紹介します。また、幻灯空間では、今回も高知県をイメージして制作していただいたオリジナル作品を展示します。
敦美ワールドの魅力をぜひ、お楽しみください。